

議長（茅根猛君） 次，8番菊池伸也君の発言を許します。

〔8番 菊池伸也君登壇〕

8番（菊池伸也君） 8番菊池伸也でございます。ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、順次質問させていただきます。

最初に、本市の産業振興策と若者定住促進についてであります。ここで4点ほど質問をさせていただきます。

1点目は、本市の産業振興策の取り組みと現状についてであります。長引く景気低迷の影響もあり、本市の産業全般において元気のない状況が続いているところであると考えられます。産業振興なくして元気なまちづくりは考えられないと思います。そういう中において、本市では複合型交流拠点施設の建設が平成25年開業を目途に実施計画が検討されているところであり、これは産業を元気にするという観点からは大変にすばらしい事業の取り組みであると思っています。

本市の基幹産業である農林畜産業を含め、商工観光業等においても、このような景気の低迷が続けば続くほど、本市にとっては元気なまちづくりどころか危機的な状況に陥ることも十分に考えられるところであります。

そこで、本市において取り組まれている農林畜産業等についての振興策及び付加価値の高い特産品作り等の現状と、今後の取り組みと展望についてお伺いします。

2点目は、秋のイベント等による入れ込み客の現状認識と今後の対応についてであります。本市の各地において秋のイベントが多く、市民の協力のもとに盛況な開催ができたと思っています。そこで、昨年と比べ入れ込み客数に対する現状認識はどのようになっているのか、また観光資源の魅力アップ等の取り組みとPRの方法についての今後の取り組みと対応について執行部のお考えをお伺いいたします。

3点目は、雇用の場の確保と若者定住促進の現状についてであります。若者定住促進には、企業誘致はもちろんのことでありますが、この地域全体が活力にあふれ魅力のあるまちづくりがなされていなければなりません。子育て世代の人々にとり働きやすく子育てが楽しくなるような、いわゆる総合的な子育て支援や教育環境の整備・福祉の充実・医療環境の整備等政策を拡充、あるいは新しい施策を掲げるなど真剣に取り組まなければなりません。今回は、本市が元気な町であるための産業振興策の観点から、若者定住促進についての現状認識と取り組みについてお伺いします。

4点目は、まちづくりシンポジウム2010について、どう受けとめているのかであります。先般行われた筑波大の2人の教授と市内の高校生によるまちづくりシンポジウムは今回で3回目であるとのことであり、市内のすばらしい自然や観光資源、歴史的な建造物等の調査や研究を重ね、高校生は8班に分かれテーマを決めまちづくりについて大学の先生の視点から、あるいは高校生の視点から調査研究の発表とまちづくりの提案がされております。

そこで執行部におかれましては、このまちづくりシンポジウム2010においての提案や提言について、どのような評価と受けとめられ方をしているのかお伺いします。

次に、廃校施設の利活用についてであります。

学校統合による廃校校舎の利活用についてであります。執行部におかれましては少子化対策に鋭意努力されていることは、この定例会初日の市長のごあいさつでも述べられているとおりであろうと思います。広報ひたちおおた12月号の中にも「進む市の少子化対策」と大見出しで載せられていましたが、依然として少子化はとまらないというのが実情です。現在も学校統合について太田地区・里美地区等においてそれぞれ進められておりますが、そのたびに廃校になる校舎が出てきます。

そこで、校舎の耐震化などをクリアしている廃校校舎や耐震化をクリアしてない校舎などを含め、今後の利活用についてはどのように考えられておられるのかお伺いいたします。

次に、地区公民館活動の施設の利用についてであります。

この中で、地区公民館の和式トイレの改修についてお伺いをいたします。地区公民館は生涯学習や地域コミュニティの場として、あるいは支部社協の会議や事業の活動の場として数多くの人々に利用されています。地区民の高齢化が進む中において、地区公民館は今後ますます高齢者の利用が考えられます。

高齢者の中には和式のトイレの利用が困難な方も多くおりますし、今後この傾向は一層増えることが想定されます。そこで、地域の大切な役割を担っているそれぞれの地区公民館の和式トイレも、多くの高齢者が容易に利用できる洋式トイレへの改修・改良が公民館を楽しく使用していただくためにはぜひとも必要であると思います。洋式トイレの改修整備計画を早急にご検討され、順次整備されるべきであると思いますので、執行部のお考えをお聞きいたします。

次に、簡易水道事業について2点お伺いいたします。

最初に、竜神ダムの水質浄化対策についての取り組みであります。竜神ダムの水質浄化対策については、昨年9月の定例会においてカビ臭の問題とともに取り上げましたが、依然としてダム湖の汚れには驚かされます。今年の夏場にはカビの発生こそなかったものの竜神大吊橋を楽しみに来た観光客からは、においが感じられたと言われているようであります。根本的な解決策として、ダム湖の水質浄化には取り組まれていないのではないかとと思われるほどであります。

竜神ダムのホームページを見ますと、奥久慈自然公園に位置し、久慈渓谷の美しい竜神峡を流れる竜神川をせきとめた竜神ダム、上空には竜神大吊橋を望むことができ、ダム湖の遊歩道には竜神大吊橋から周遊できるようになっており、四季折々の美しい風景の中でハイキングを楽しむことができます。ダム湖の奥には亀ヶ淵があり神秘的な姿を見せてくれます、と書いてあります。

観光資源としても大切なダム湖の水面を、常にきれいな状態に保つことができれば大変にすばらしいことではあります。今までの取り組みではさほどの効果はないように思います。県議会においても、水質浄化に努めるとの答弁を、今年の3月の県議会で土木部長から答弁をしていただいたと伺っております。そこで、今までの取り組みをするだけなのか、新たにダム湖底の堆積物除去等も考えられているのかお伺いいたします。

次に、水道水の濁り防止対策についてであります。

今年の9月であったと記憶していますが、強い雨が降った後にダムの放流があり、その後に水

道水が透明ではなく、黄色い感じの水道水になっており、とても飲む気にはなれないことがありました。ダム放流のたびにそういう状況になるというわけではありませんが、私はダムの放流水の比較的近い場所からの取水が原因であると考えておりますが、執行部のお考えをお伺いいたします。

また、大切な水道水が常に安全で安心な供給ができるようにしていただくために、今後の取り組みについてもあわせてお伺いいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 江幡治君登壇〕

産業部長（江幡治君） 産業部関係のご質問にお答えをいたします。

初めに、本市の産業振興策の取り組みと現状についてであります。本市の資源を生かし地域の活力を生み出すためには、基幹産業である農林畜産の振興が不可欠のものであると考えております。しかしながら、中山間地域に位置します本市におきましては、農業従事者の高齢化、過疎化による耕地の荒廃が急激に進んでいる状況にありますので、地域が一体となった効率的な営農体制である集落営農組織や農作業の受委託組織の育成確保に取り組むことが必要となっております。

このため受託組織につきましては、平成21年度において3団体が組織化を図り、本年度も既に1団体が組織化をしております。年度内にさらに2団体の組織化を推進しまして、年度末までに14団体の組織化を進めてまいります。

また、農業を振興する上からは、農家の所得向上が第一でありますので、より付加価値の高い農産物の生産と加工に向け、営農指導の強化並びに加工品開発の支援に努めてまいります。

畜産につきましては、小里牧場の和牛を里美庵やプラトーさとみのレストランでステーキ等として提供しております。また贈答用としても販売をしております。さらにハンバーグ等の新商品も発売を開始しておりますので、引き続き商品開発と販路拡大を支援してまいります。

また、小里牧場の和牛につきましては、生産性及び肉質の向上を図るため、茨城大学との連携によりまして、本年度から3年間にわたる共同研究を開始したところでございます。

さらに、林業につきましては、茨城県の森林湖沼環境税を活用しまして、荒廃した森林の間伐・里山の整備等を行いますとともに、林業の担い手育成等を目的としまして林業団体への支援を行っております。また、本年度宮の郷工業団地内に新たに木材乾燥施設及び木材流通センターが完成しましたので、これらを利用した林業の振興を図ってまいりたいと考えております。

以上、申し上げましたように、産業振興に向け、官との連携、農商工連携の取り組みによりまして、魅力ある特産品作りを進めてまいります。

次に、秋のイベント等による入り込み客の現状認識による今後の対応についてのご質問にお答えをいたします。

秋の各イベントの入り込み客数につきましては、常陸太田秋まつりが昨年3万6,000人、本

年3万8,000人,常陸秋そばフェスティバルが昨年2万1,000人,本年2万5,000人,竜神紅葉まつりは期間中の渡橋者数が昨年約10万1,000人,本年9万6,000人,かかしまつりが昨年4万4,000人,本年4万7,000人と,合計をしますと昨年の入り込み客数20万2,000人に対しまして,本年20万6,000人ということで4,000人の増となっております。

この増となった理由でございますが,天候等に恵まれましたこと等とあわせまして,常陸太田秋まつりにおきましては,工業団地内の企業に参加していただくなど参加団体が増えてきましたこと,また,常陸秋そばフェスティバルにおきましては,そば打ち教室を2日間にしたことや地元そば店によるそば打ちの実演など地元のかかわりを増やす取り組みをしてきたことなどによるものと考えております。また,紅葉まつり期間中の登峽者数が減りましたことは,紅葉の時期がおくれたことによるものと考えております。

今後におきましても,入り込み数を増やすことを目標としまして,市民協働を基本としてイベントの内容を検証しながら観光資源の整備を進めるとともに,イベント情報のタイムリーな発信などにより数多くのメディアに取り上げられることによって,PR効果を高めていきたいというように考えております。

次に,雇用の場の確保と若者定住促進の現状についてのご質問にお答えをいたします。

一昨年のリーマンショックから続いております景気低迷によりまして多くの日本企業が影響を受け,雇用環境は大変厳しいものとなっております。本市も同様の状況にあります。このため,ハローワークや市内の3つの高校とこれまで以上に連携を密にしまして,ハローワークと一緒に市内企業を訪問し,求人枠の拡大,それから新規募集の要請を行うなど新たな雇用の確保に向けた取り組みをしているところでございます。

また,工業団地における来年4月の新規雇用の予定数は,常陸太田工業団地で4人,ハイテクパーク金砂郷で5人,合計9人の新規雇用が見込まれております。さらに宮の郷工業団地におきましては,常陸大宮市側ではありますが,木材関連企業が2社新規に立地をし,さらに2社の新規立地が予定をされております。ここで40名を超える新規雇用が見込まれております。

今後とも雇用の確保に努めるとともに,農業の担い手の育成,新規就農者への支援,さらには立地企業や既存商工業者へのフォローアップ及び企業誘致を積極的に進めるなど,農林畜産業・商工業を初めとする本市産業の振興を図ることによりまして,若者の定住の促進に努めてまいりたいと考えております。

議長(茅根猛君) 副市長。

〔副市長 梅原勤君登壇〕

副市長(梅原勤君) まちづくりシンポジウム2010についてのご質問にお答えをいたします。

筑波大学との連携により市内の高校生が常陸太田市のまちづくりを考える取り組みは,本年度3回目の開催となりますが,今回は当初より単に発表・提案に終わらせるのではなく,市の施策などに具体的に反映させられないか,あるいは今後のまちづくりに高校生がかかわっていくような形でつなげられないかといった視点で,7月のスタート時点から勉強会の会場となった高校や

筑波大学に足を運びまして情報提供や助言を行うなどかわりを持ってきたところでございます。

1月20日に開催されましたシンポジウムでは、学校の垣根を越えて8班に編成された高校生が本市の基幹産業であります農業の振興策あるいは商店街の活性化策、都市との交流策、観光振興や交流人口の拡大、景観の整備、ライブイベントの開催、さらには高齢者とのコラボレーションの企画等々4カ月間にわたる研究の成果が存分に発揮され、まちづくりに熱意を持って取り組んでいる姿に感動を覚えたところであります。

発表に際しましては、事前に高校の先生方との間で高校生の発表をどのような形で生かしていくか、あるいは今後はどうつなげていくかといった協議を重ねてきておりまして、近く12月18日の予定でございますけれども、商店街の代表の方々やまちづくりの実践者の方々にも参加していただいて提案内容の一つ一つについて発表した高校生との意見交換会を行う予定でございます。その中から具体策を見出していきたいと考えております。

次に、学校統合後に伴う廃校校舎の利活用についてのご質問にお答えをいたします。

廃校の利活用方策の検討につきましては、平成19年度をもって廃校となりました金砂小学校・北小学校の利活用方策の検討を行うため、平成20年3月に庁内関係部課等の職員による廃校等利活用検討庁内プロジェクトを立ち上げまして、5回ほど会議を重ね、校舎や体育館等の耐震化の状況のほどを踏まえて、それぞれの利活用についての考え方をまとめ、その後、地域の皆様方からもご意見をいただきながら、利活用の具体的な方向付けを行ってきているところでございます。

今後におきましても、学校が周辺住民の皆様の努力により地域の財産として大切に守り、育てられてきた経緯、あるいは地域のシンボルとしての価値を残そうと、残していこうという思いを何らかの形で利活用方策に反映させることによりまして、地域住民の皆様の新たな活動の場、活力の源となるよう利活用方策の検討を行う必要がありますことから、その都度廃校等利活用検討プロジェクト等を開催し、地域住民の皆様のご意見等を反映させることを基本に、利活用についての議論検討を行ってまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） 地区公民館和式トイレの改修についてお答えいたします。

地区公民館は19館ございますが、そのうち14館が築後15年以上を経過し、一部の施設においては、建物の老朽化やトイレを初めとする時代にそぐわない設備等により不便を来しているところもございます。公民館を生涯学習や地域活動の拠点としてどなたにも気軽に気持ちよく利用していただくためには、施設等を計画的に整備していく必要があると考えております。

地区公民館のトイレの状況でございますが、現在洋式トイレは男性用が4館、女性用が11館、障害者用は3館に設置されており、このうち男性用・女性用のいずれにも洋式トイレがあるのは、太田公民館、交流センターふじ内に設置されております金郷公民館、水府総合センター内の染和田公民館の3館のみでございます。

議員ご発言のように、公民館を利用する高齢者の方々も多くなっておりますので、利用者が使

いやすいようすべての公民館に少なくとも1つずつ洋式トイレを計画的に順次整備してまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 水道部長。

〔水道部長 大和田猛君登壇〕

水道部長（大和田猛君） 簡易水道につきまして、ご答弁申し上げます。

初めに竜神ダムの水質浄化対策についての取り組みについてでございますが、茨城県が管理する竜神ダムにつきましては、CODの値が高いことと呈色が大きな課題から、CODにつきましては曝気循環装置の運転時間調整によりダム湖水の富栄養化対策を引き続き実施してまいります。

また、呈色につきましてはダム湖底の落葉が腐食することが原因から、落葉を貯留する貯葉ダムの設置、脱色効果があるとされる木炭かごの設置等を行いました。呈色の指標でございます色度の値の改善には至っていないのが現状でございます。呈色はダム流域の自然環境の影響を大きく受けますので、同様の問題を抱える国内ダムにおいて各種の対策がとられておりますが、極めて難しい問題とされておりますことから、水質や環境の専門家の指導を受けながら引き続き茨城県と協議を行い、水質の改善に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

また曝気循環装置の運転方法について検討を行い、水温による運転形態をとっていただきました。15℃を超える水温では8時間の運転を、水温23℃以上では24時間の連続曝気運転をしてきてございます。引き続き、曝気循環装置の適正な運転と水質の改善に向けて要請をしてまいります。

なお、ダム湖底の堆積物除去につきましては、竜神ダムの負担者会議並びに竜神ダム利水者会議等で引き続き県に要請をしてまいりたいと考えております。

次に、水道水の濁り防止についてでございますが、水府北部浄水場の取水口は竜神ダム水を放流します竜神川と山田川の合流する下流約50メートルに位置し、途中に支川もなく山田川本流以外ダム放流水の希釈ができない状況にございます。夏場の集中豪雨や雷雨時の大雨のときなどに呈色したダム水の大量放水等があった場合などに、急激な濁度の上昇による濁度測定装置と薬品注入装置のタイムラグによって初期に取水されました原水の色度の除去が完全でなかったものであり、これらの対策につきましては専門家の指導を受け、凝集剤と薬品注入プログラムの再検討、機器の点検等を行い、引き続き水質の改善に努めてまいります。引き続き安全で安心な水道水の供給に心がけてまいります。

以上でございます。

議長（茅根猛君） 8番菊池伸也君。

〔8番 菊池伸也君登壇〕

8番（菊池伸也君） 2回目の質問に入らせていただきます。

ただいまは大変前向きなご答弁ありがとうございます。

2回目でありますので、要望のみにとどめておきたいと思っております。本市の産業振興策若者定住促進についてでありますけれども、産業振興のために、行政は常に市民のパートナーであることを自覚され、その市民のために懸命な施策をとっていただきたいと思いますと思っております。

次に、秋のイベント等の現状認識についてであります。昨年よりもかなり多くなっているということでもありますけれども、常にイベント等はマンネリ化することなく新しい考えを入れ、毎年交流人口を増やすような努力を重ねていただきたいと思います。

また、観光資源の魅力度アップ等の取り組み等、PR等でございますけれども、今年は紅葉の関係上、紅葉がおくれたということもありまして、少し少なかったということでもあります。テレビ等で放映をされれば、すぐにお客さんがどっと来るような状況が続いておりましたので、PRの方法等についても今後いろいろと検討していただきたいと思います。

次に、雇用の場の確保と若者定住促進の現状についてであります。今回、産業振興の観点から若者定住促進について現状認識と取り組みについてお伺いをしましたけれども、実際には企業誘致等あるいは新規事業、起業者等の育成、少子化対策等さまざまな観点から横の連絡をとりながら、魅力あるまちづくりをしていかなければ若者定住の促進は図れないのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、まちづくりシンポジウム2010についてでありますけれども、私は去年と今年と2回ほど聞かせていただきました。そういう中で、懸命に筑波大学の藤川先生が太田の町の中の古い建物の調査、あるいは町の形で防火対策ができていたりとか、さまざまな発表があったわけなんです。そういうまちづくりで今一番のトップランナーは、真壁であるというようなことも述べられておりました。太田市も大変歴史的に古い建物が数多く残っております。それを少しでも利用をされる方向で今後取り組んでいただければと思います。

また、もう一人の先生は、たしか金出先生とかおっしゃっていたと思いますが、女の先生でございます。梅津会館のことを2年間続けて調査した研究発表みたいな感じで述べられておりましたが、梅津会館については、今一生懸命に歴史の展示物が並べられておまして、そのPRをもう少し考えていただければ、来客数も増えるのではないかと思います。

私は11月の末に、普通の日なんです。長野の北斎館があるところに行ってきましたが、そこでは、北斎館と「栗の小径」というのがあるんですが、ちょっとしたきれいな町並みなんですけれども、観光地が近くにあるということもありまして、小さな町でもすごいバスが次から次へと入ってくるようなところがあります。太田市は今、ちょうど鯨ヶ丘の場合はそういう状況ではありませんけれども、これからは長い目で見て、今取り組んでいることがこれから先、実を結ぶように頑張っておこなっていただければと思います。

次に、地区公民館のトイレの改修についてでありますけれども、これはもう早急に対応をお願いできればと思います。大変高齢者が多くて、ひざが痛いとか腰が痛いとかいう方が元気にですね、公民館の事業や社協の事業等に参加をされております。そういう方が楽しみながら事業に参加されていますので、トイレのほうも改修していただければ楽に使用できるのではないかなと思います。

最後の簡易水道事業についてでありますけれども、これは県のほうでの対策ということになりますので、先ほど答弁の中にもありましたけれども曝気装置の設置、これも温度によって24時間やったり8時間であったりということで、曝気装置に対しての運転はそういうふうに行っている

ことは承知をしております。前に水質浄化対策で新聞等にも載ってございましたけれども、ダムの上流側ですね、上流側に副ダムというものをつくって落葉を集積というかそこにためましてそれを撤去、あるいはその上流側に木炭の投入ですか、そういうことをやっていることはもうわかっているんですが、それでも、先ほど申し上げましたように水質の浄化には至っていないと。

さらに、この2番目の水道水の濁り防止についてであります。なかなか役所のほうに連絡は多分しないんだと思うんですが、かなり強い雨が降った後放流があれば、ちょっと飲みづらいというか、見ただけでもこれは飲む気になれないというような状況でありますので、原因をもう少し詳しく検討していただいて、ぜひ、安全安心な水道水の供給をお願いしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。